性善説と性悪説

- 人間の本性は善であるから、教えるか、ほっておけば悪いことをしない、とうのが性善説である。

- これに反し、人間は元来悪いものであるから、規則でこれを管理しなければならない、というのが性悪説である。

- 結局、人間は性悪と性善の両方があって、適当にバランスを保っているのではないか。アルコールを少し飲むと、まず性善の部分が麻痺して、スピードを出したい、とまりたくない、という性悪の部分が暴れ出して、ホロ酔い運転となる。アルコールの量が増すと、性悪の部分まで麻痺して、人間の基本的行動までできなくなって、泥酔運転となる。

- 性善の部分のない人は、野獣に近くなり、性悪のない人は、実行力がなくなってしまう。われわれには性善も性悪も必要なのであり、相手も性悪とみても決して失礼には当たらないことが必要である。ことに経営、取引きなどで、対人関係の仕事をする場合には、まず性悪説によって、レールを敷いておかねばならない。

- 「君主論」「戦術論」で有名なマキアベリは、人間は性悪だと断言する。彼は決して人間を侮辱しているのではない。謀叛を予防しようと思ったら、人間は性悪だとして、的確な予防措置をとらないと、手落ちができるという意見である。

- われわれは人間を尊重しなければならない。部下を疑っては統御はできない。相手は悪者だと思っていては、よい取引先はできない。

- 〝規則は性悪説で作成し、実行は性善説による〟主義がよい。トラブルを防ぐには、性悪説によって組織や規定をつくっておき、このレールにのって、性善説で人に接すれば間違いもないし、人の感情も害しない。